

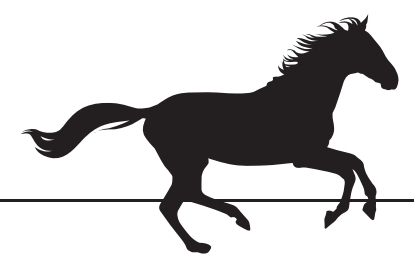


全長約130メートルの参道を乗り子と呼ばれる小学4～6年の児童が一気に駆け上がる。県内外から毎年約1万人の観客が訪れる、妻木町の一大行事だ。

流鏝馬という名前は知っていたが、昨年初めて参加。もっと早く見に行けばよかった。  
 カメラが趣味の私にとっては、とにかく馬の迫力がすごい。子どもが成長したら、いつか馬に乗せたいと思う。  
 毎年いろいろなドラマが起こるのが流鏝馬。  
 知り合いの子どもの応援に行きましたが、気が付けば全員を大声で応援していました。  
 みんなで友達の応援に行きます。  
 子どもたちの投げる鞭や扇子を捨てるのが楽しみです。市外の親戚も毎年一緒に見に行っています。

特集

流鏝馬  
 - Y A B U S A M E -



2017.10.8 日  
 八幡神社(妻木町)

受け継がれる  
 伝統

江戸時代より、約400年にわたり守られてきた伝統は、少しずつ姿を変えながら今日の町民の心に深く受け継がれています。

八幡神社の流鏝馬神事。昭和31年より土岐市無形文化財にも登録されている市内有数の伝統行事の一つです。6人の児童らが、雄たけびを上げながら参道を一気に駆け上がる様子は正に圧巻の一言。参道には、毎年多くの観客が詰め掛けます。  
 そんな流鏝馬を一層楽しんでもらうために、今回は流鏝馬に携わるさまざまな人々の思い、そして厳しい練習に打ち込む児童の横顔を追いました。土岐市には、これだけ身近に心揺さぶられる素晴らしい行事があります。今年の流鏝馬、あなたもぜひ見に行ってみませんか。



**民** 俗芸能として市の無形文化財に登録されている八幡神社の流鏝馬。江戸時代初期の元和9年(1623年)に妻木城主の妻木家頼が御旅所を造営し、馬1頭を献上した事がその始まりだと言われています。  
 明治3年を最後に一度は廃絶したものの、明治14年に再興され、現在に至ります。明治以降は衣装などが次第に簡略化されましたが、平成7年に江戸時代当時の衣装、いわゆる、古式、衣装を復活させるなど、近年は往時の姿の再現にも力を入れています。  
**妻** 木小学校の校庭では、今から400年前、天下分け目の関ヶ原合戦の際の妻木城主の故事にちなんで火縄銃の実演が披露されます。

その後、段ボール製の鎧を着た幼稚園児たちの一行が加わり、神社まで凱旋の武者行列が出発します。祭りとは、時代によって少しずつ姿を変えてゆくもの。伝統とは、全てが変わらないのではなく、古いものを残しながら新しい文化も取り込んでいきます。  
**神** 社では、祭元町内より奉納された花馬が若者と共に参道を駆け上がり、小学生が務める巫女が神楽殿にて華麗な舞を披露します。そしていよいよ始まる流鏝馬奉納では、明治以降の衣装である陣羽織をまとった小学生が三度、参道を駆け上がります。その後、弓取式(弓を射る儀式)を行い、古式衣装に着替えた後に再開されます。この頃には、集まった観衆の熱気で祭りは最高潮を迎えます。

